

# 無 災 害 6 年 目 を 迎 え て

小坂宮林署 石 丸 広

## は じ め に

今年度、樺谷製品事業所は全国の製品事業所の中から労働災害防止の最優秀事業所に選ばれ、職員一同この上もない喜びと同時に、この名誉を傷つける事の無いようさらに真剣に取り組んでまいりたいと考え、ここに現場で日常実施している安全活動と日常の心構えについて発表する。

## 1. 事業所の概況

樺谷製品事業所は標高 1,600 m 地帯の亜高山天然林を主体に下流地帯のヒノキ人工林も含めて、4セットで年間 9,000 m<sup>3</sup>の素材生産を執行している。

事業地一円にはサル・カモシカが生息しており、作業現地の傾斜は平均40度に近く、岩場が多いうえ、背丈ほどのチマキササガが密生し作業条件は極めて悪い所である。さらに、職員の平均年齢も48才で年々老令化するなかで、生産量の確保は勿論のこと、安全と健康の管理に事業所全体で取り組み、昭和50年5月27日以降無災害を継続して今日まで、258,808 時間の樹立となった。

表-1. 生産量と労働生産性(直よう)

区 分	単 位	S 50	51	52	53	54	55	備 考
署 生 産 量	m <sup>3</sup>	30,334	30,406	29,308	27,778	(1,062) 27,454	(1,456) 27,750	( )内書は 請負生産量
署 生 産 性	m <sup>3</sup> /人	1.62	1.62	1.47	1.47	1.41	1.44	
樺谷事業所 セ ッ ト 数	セ ッ ト	2	2	3	3	4	4	
人 頭 数	人	15	17	23	24	30	33	
生 産 量	m <sup>3</sup>	5,726	7,235	9,343	10,317	11,709	9,000	
生 産 性	m <sup>3</sup> /人	1.66	1.76	1.62	1.79	1.85	1.85	

## 2. 事業所の安全管理

「決めたこと、決められたことは必ず守る」「自分の身体は自分で守る」を基本理念とし、事業所の安全目標のもとに、各作業班では年間目標とその月の作業内容に合った目標を自主的に決め、休憩所に掲示し、さらに毎日のTBMで徹底をはかりながら一人、ひとりの作業分担と責任を明確にして安全作業に取り組んでいる。

表-2. 年度別災害発生状況

	区分	S 50	51	52	53	54	55(12月末)
件数	署全体	9	9	1	2	3	3
	製品関係	6	7	1	2	3	2
	榎谷(専)	1	0	0	0	0	0
度数率	署全体	16.94	17.24	1.92	4.06	6.31	8.71
	製品関係	46.56	44.77	6.12	13.00	19.68	14.14
	榎谷(専)	31.65	0	0	0	0	0
強度率	署全体	0.64	15.08	0.04	0.31	0.64	0.53
	製品関係	1.11	50.21	0.14	0.99	2.00	1.30
	榎谷(専)	0.44	0	0	0	0	0
延時間	榎谷(専)	S50.527~ 31,592	34,840	43,024	49,896	51,640	47,816

榎谷製品事業所無災害延時間 258,808 時間

表一3. 昭和55年度 安全衛生実施目標

署 目 標	榎谷製品事業所の目標	班 別 目 標 の 例
<p>1. 積極的安全活動により災害の絶滅。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 班長、作業主任者、安全推進員の体制づくり。</li> <li>○ みんなで作り、盛り上げる安全活動。</li> <li>○ 作業指示の明確、上下接近作業の排除。</li> <li>○ 合図、相互確認の徹底。</li> <li>○ 全員参加の安全懇談会月1回実施。</li> <li>○ 安全日誌と300事故報告。</li> </ul> <p>2. 振動障害等職業性疾病の予防。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 無振動機械の定着をはかる。</li> <li>○ 振動機械の正しい操作と目立技術の向上。</li> </ul> <p>3. 交通災害の防止。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ シートベルトの完全着用。</li> </ul> <p>4. 私傷病予防など健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎月の衛生目標を全職員が認識し、自主的な健康管理につとめる。</li> </ul>	<p>1. 無災害を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職務分担による安全職場の確立。</li> <li>○ TBMの充実。</li> <li>○ 相互注意運動の実施。</li> </ul> <p>2. 職業性疾病と私傷病の予防につとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 振動機械の正しい使用。</li> <li>○ 健康管理の充実。</li> <li>○ 衛生巡視の計画的実施。</li> </ul> <p>3. 安全点検の充実をはかり、施設行動災害の防止。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計画的な安全点検。</li> <li>○ 指差、信号、回避確認の正確実施。</li> <li>○ 安全標識類の整備。</li> </ul> <p>4. 作業班毎の目標を設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自主的に年間目標・月間目標を定め、掲示とTBMで徹底。</li> <li>○ 作業分担と責任の明確化。</li> </ul>	<p>1. 春 季</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 融雪により足場が悪い。十分な姿勢と安全確認を行う。</li> <li>○ 気候の変り目、自主的な健康管理を十分行う。</li> </ul> <p>2. 夏 季</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 梅雨期に入り、霧で視界悪し、伐倒、集材作業の連携を確実に行う。</li> <li>○ 暑くなり疲労が蓄積し易い。暴飲暴食をさげ、睡眠は十分とる。</li> </ul> <p>3. 秋 季</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 火災発生シーズンのシースン、枝条焼却、タバコの火に注意。</li> <li>○ 食欲の秋、秘々たべて頑張ろう。</li> </ul> <p>4. 冬 季</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 凍結により足場がすべり易い。足場の安全を確かめ作業をする。</li> <li>○ 厚着により動作が鈍くなる。連携作業と指差確認を確実に進行。</li> </ul>

表-4. わが事業所の具体的な安全衛生活動

1. 生産現場における指差確認運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作業の連携と基本動作を確実に守るため、今一度の確認一呼吸の猶予、もう一步の退避をポイント。</li> </ul>
2. 「4S」運動。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 整理・整頓・清潔・清掃による職場環境の改善。</li> </ul>
3. 自主的な健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 病気休暇日数の傾向把握により、健康管理意識の向上。</li> </ul>
4. 事業所情報の発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎月1回安全と仕事について、ミニ情報の発行により家庭とのコミュニケーションに努める。</li> </ul>
5. 目で見る安全活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作業配置板、安全点検板の活用</li> <li>○ クランプ、クリップの固定確認の表示</li> <li>○ 主索履歴板の設置</li> <li>○ 手づくりによる注意標識</li> </ul>

表-5は「無災害5年間を振り返って」というテーマで日常の心構えについて全員が述べたものである。(表-5参照)

### おわりに

製品事業所の使命である計画生産量をいかにして達成するかを考えると、当然ながら安定した労務の出役「無災害」「無私傷病」が確保されなければならないことは勿論、全員が真剣に取り組むことができる明るい快適な職場が必要である。また私達個人個人としても生活の基盤を国有林に求め、生活を支える収入を得ていくためにも、安全を確保し、みんなが一日一日を大切に全力で作業に向っていくことが必要である。

「生産と安全」は車の両輪であり、私達は小さな心使いと助け合いの積み重ねから職場の和をほかり、さらに一人ひとりの努力と意欲によって事業所の生産と安全の両輪を快適に走らせ国有林野事業の発展のために事業所一丸となって頑張りたい。

